

2021-2022

Yokohama National University
Organization for Local Collaboration Networking
Global-Local Education and Research Center

横浜国立大学
地域連携推進機構
地域実践教育研究センター

Annual Report
2021-2022



Think Globally,
Act Locally.

地域実践教育研究センター
Global-Local Education and Research Center

CONTENTS 01

地域交流科目 [学部 副専攻プログラム] 02-13

Under graduate Sub-major program "Local-exchange Subjects"

地域課題実習

- ・はまみらいプロジェクト
- ・みなとまちプロジェクト
- ・おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト
- ・ハマの屋台プロジェクト
- ・Yokohama Univer city
- ・ワダヨコ
- ・コットンおとなりさんプロジェクト
- ・まちに開いた交流の場デザイン
- ・New-New Town を考える
- ・SSUI-yokohama PJ(横浜まちづくり学生会議 PJ)
- ・サコロボ
- ・市民活動を体験して考える協働型まちづくりづくりプロジェクト
- ・ローカルなマテリアルのデザイン
- ・アグリッジプロジェクト
- ・都市の自然を楽しむライフスタイル
- ・再エネ経済循環
- ・データで捉える地域課題・地域経済 2021
- ・南米につながる子どもたちとの横浜『共生』プロジェクト
- ・県在住ブラジル人生徒の学習支援

地域実践アワード

地域創造科目 [大学院 副専攻プログラム] 14-15

Graduated school Sub-major program

" Creative education program about local problems"

研究 16-18

Research

-1. 研究の柱

- (1) 住みたい都市に関する研究
- (2) 防災・事前復興・復興に関する研究
- (3) 地球環境未来都市に関する研究
- (4) 里地里山の保全効果に関する学際的研究

-2. 地域研究

地域連携推進機構 19

Organization for Local Collaboration Networking

- ・地域連携推進機構について
- ・地方自治体との連携協定
- ・Next Urban Lab

関連教員 20-21

The Relationship Professors

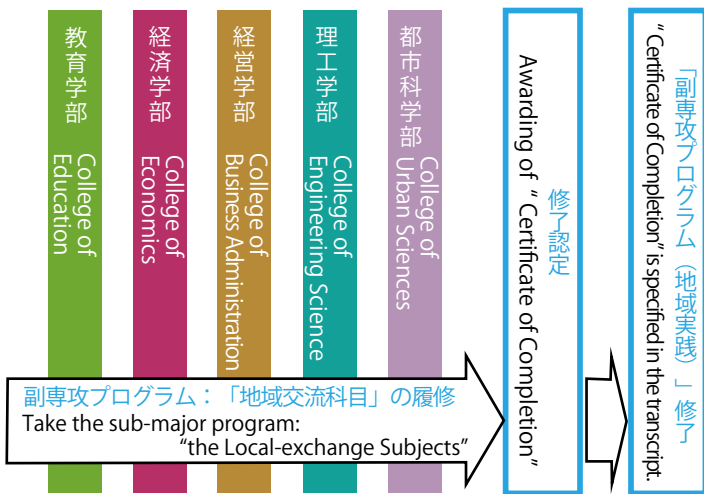
■地域交流科目について

地域交流科目は「グローバルな視野をもって地域課題を解決する、先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム」として、横浜国立大学の全学部生が履修可能な副専攻プログラムです。

このプログラムは、①コア科目、②講義科目、③実践科目の3つの科目で構成されています。 所定要件の10単位以上を習得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

■About the "Local-exchange Subjects"

The Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects" connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. Students can receive completion authorization when they acquire the prescribed credits of the sub-major program.

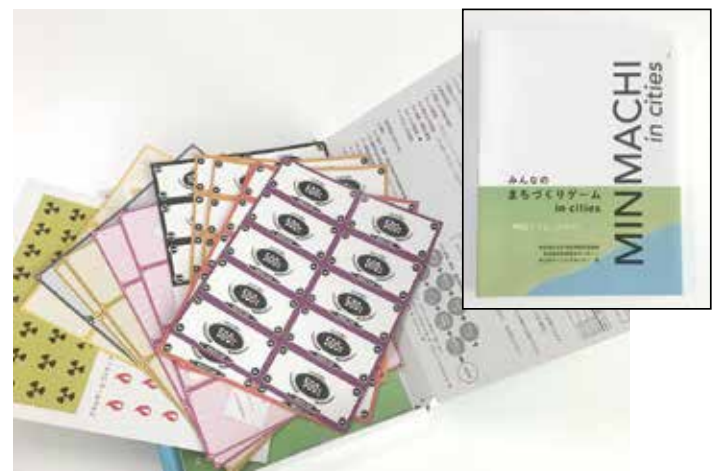
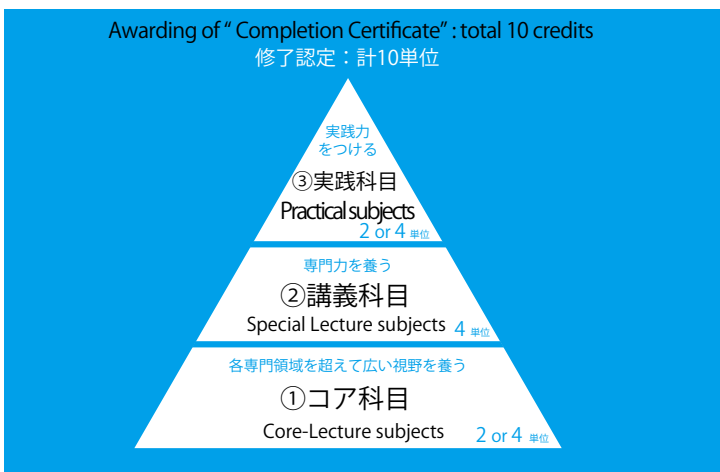


コア科目A:「地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)」

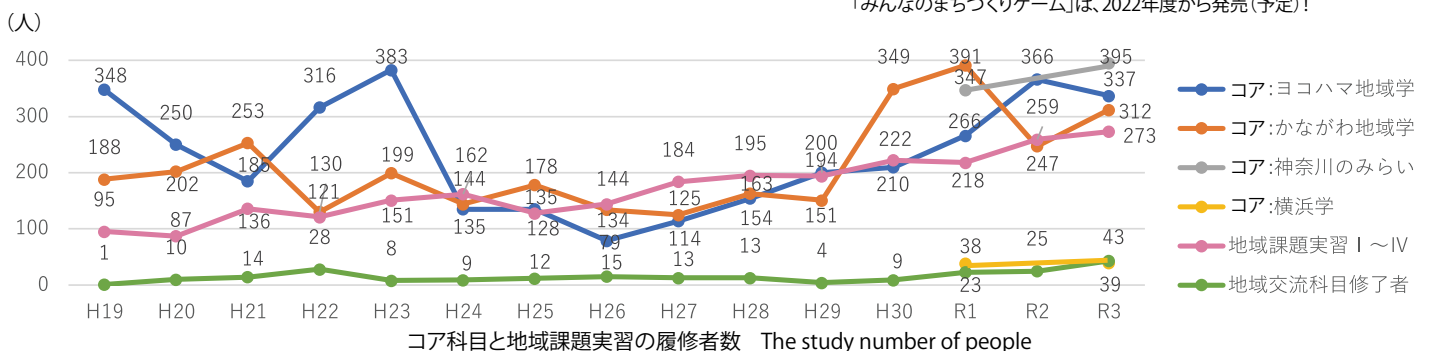
| 回 | 講義テーマ | 講師 |
|----|------------------------------------|---------------|
| 1 | 概論(1)オリエンテーション・横浜の成り立ち | 志村真紀・内海宏 |
| 2 | 概論(2)横浜という都市を通して日本の近代化を語る | 野原卓 |
| 3 | 概論(3)世界の中の横浜、日本の中の横浜 | 高見沢実 |
| 4 | フィールド(1)都心地域の現状と課題 | 野原卓 |
| 5 | フィールド(2)中間地域の現状と課題 | 志村真紀 |
| 6 | フィールド(3)郊外地域の現状と課題 | 内海宏 |
| 7 | 今日の横浜の都市課題(1) ～人口減少社会に向けて～ | 稲垣景子 |
| 8 | 参加型授業(1)現地調査 | - |
| 9 | 参加型授業(2)中間報告会 | 志村真紀・内海宏・秋元康幸 |
| 10 | 今日の横浜の都市課題(2) 国内外の港町における地域課題と再生モデル | 山崎満広 |
| 11 | 地域再生モデル(1)クリエイティブシティと都市政策 | 秋元康幸 |
| 12 | 地域再生モデル(2)都市農地再生と地域まちづくり | 内海宏 |
| 13 | 地域再生モデル(4)子どもまちづくり | 三輪律江 |
| 14 | 地域再生モデル(3)商店街と地域まちづくり | 志村真紀 |
| 15 | 参加型授業(3)各地域の課題と解決方法について発表・討論する | 内海宏・秋元康幸・志村真紀 |

コア科目B:「地域連携と都市再生A(かながわ地域学)」

| 回 | 講義テーマ | 講師 |
|----|--|-------------|
| 1 | オリエンテーション | 志村真紀 |
| 2 | 地域をめぐるお金の流れ:地域経済 | 池島祥文 |
| 3 | 地方行政 | 伊集守直 |
| 4 | (福祉と)地域経済 | 伊集守直 |
| 5 | 箱根町の観光まちづくりへの取り組み | 箱根町行政×池島×伊集 |
| 6 | エネルギー | 大森明 |
| 7 | 地方:「みんなのまちづくりゲーム」がつくられた経緯 ～東日本大震災を踏まえた今後のまちづくりについて～ | 浅野拓也 |
| 8 | 第1回 参加型授業(みんなのまちづくりゲームのプレー方法) | 池島・志村・伊集 |
| 9 | 第2回 参加型授業(みんなのまちづくりゲーム) | 伊集・池島・志村 |
| 10 | 政令指定都市・横浜市:SDGsへの取り組み | 信時正人 |
| 11 | 県西・小田原市:SDGsの時代における地域経営 ～「持続可能な地域社会モデルへ」 | 加藤憲一 |
| 12 | 第3回 参加型授業(みんなのまちづくりゲーム) | 志村・伊集・池島 |
| 13 | 第4回 参加型授業(みんなのまちづくりゲーム) | 志村・池島・伊集 |
| 14 | 第5回 参加型授業(みんなのまちづくりゲーム) | 池島・伊集・志村 |
| 15 | レポート発表会・討論会 | 志村・池島・伊集 |



地域連携と都市再生B(かながわ地域学)の参加型授業の教材として開発した「みんなのまちづくりゲーム」は、2022年度から発売(予定)!





データで捉える地域課題・地域経済2021 The analyzing regional issues and economics by data in 2021



地域経済への多様なアプローチ Diverse approaches to the local economy

当プロジェクトでは、各グループに分かれ、地域の各アクターとも連携しながらプロジェクトを運営している。多様な研究を行っているため、様々な成果がでている。そうした成果を、中間報告会、最終報告会という形で持ち寄り意見交換しながら進めている

氏川グループは、横浜市内での経済・企業・環境に関する情報について、春学期は主としてオンラインで検証しつつ、横浜市の経済において、各企業やその環境対応に関する各種のエビデンスを明らかにすることにつとめた。池島グループでは、これまで取り組んできたテーマ「農業の地域循環、経済の地域循環」を踏まえ、第一に、農と食に関する資源循環を取り上げ、食料残渣を活用した堆肥化、その堆肥化を利用した農産物生産、その農産物を利用した飲食店経営といったサイクルに伴う資源循環と経済循環を測定しました。第二に、箱根町の「産業の多様性」を測定したうえで、宿泊事業と飲食事業、交通事業の連携の可能性を通じた新しい産業育成のアイデアを提起した。相馬グループは、三つの班に分かれ、「ワークライフバランスとワークライフインテグレーションはジェンダーを平等に貢献するか」、「ポストコロナ時代の日本型 ICT 教育」、「コロナ禍における学校給食と貧困児童に対する影響分析」について各班で実状の課題から様々な検証を行なっている。居城グループは、地域経済における様々な事象に対し、推計やアンケート、統計を取り、考察していった。その中で、お互いに質問や意見をぶつけていくことで、個人では得ることのできなかった手法や結果、考察を生み出した。

- 学生：64名/担当教員：相馬直子、氏川恵次、池島祥文、居城琢
- 連携・協力：横浜市政策局 関口昌幸様



市民活動を体験して考える協働型 まちづくりプロジェクト NPO Internship Project



NPOインターンを通してSDGsを考える！ We think about the SDGs through the NPO Internship!

当プロジェクトの背景・目的としては、NPO による市民活動の実態や課題を現場で体験する活動を軸に協働型まちづくりについて体験して考え、自らが主体的に学ぶ力を身に着けることにある。「ボランティア」ではなく、「スタッフ」として現場に向かい、組織の一員としてスタッフと対等に議論したり、他のインターン生と活動したりすることにより、表面的な結果ではなく、社会の裏側や深い課題に気づき、自己と向き合うことで「働くことに対する価値観」を育てることを目的・目標としている。

活動は個別に NPO へのインターンを通じて活動を行った。コトラボ合同会社では、障子張り替えや部屋の掃除、ホステルの部屋をプラン提案などを体験し、寿町やホステル事業について学んだ。横浜 NGO ネットワークでは、インターン生が主体となって、食の多様性、多文化共生、ジェンダーをテーマに SDGs に関するイベントを 4 つ企画し、その運営を行った。アークシップでは国も世代も性別も障がいも関係なくつながるイベントにて、広報活動や、ミュージシャン、福祉施設への取材などを行った。アクト川崎では、地球規模の環境問題、特に海洋プラスチック問題について学習し、その解決策について考えたり、「かわさき環境フォーラム」に参加し、環境問題に取り組む人々と地域子ども達と交流を深めた。

今後の可能性としては、団体での活動を通じて身に付けたビジネスマナーや、多文化共生、地域での連携に対するアプローチの手法などを活かして、自分の問題意識を実践することのできる人材となることである。若い世代からの視座で何ができるか、NPO に関わらず検討したい。

- 学生：5名/担当教員：志村真紀
- 連携・協力：コトラボ合同会社、横浜 NGO ネットワーク、NPO 法人 ARCSHIP、NPO 法人アクト川崎、NPO 法人アクションポート横浜
- 活動地域：横浜市、川崎市等
- サイト：<https://actionport-yokohama.org/>



はまみらいプロジェクト The hamamirai Project



みらいへの架け橋を創る ハマのオールラウンダー We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜の街づくりに関わる UDC-SEA の活動理念を元に創設されました。横浜を学生の立場からより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに、魅力の発信・課題の改善に取り組んでいます。

2021 年度は総勢 35 名のメンバーが、4 つのチームに分かれ活動しました。エコツアーチームでは、横浜市庁舎、東京都市サービス、資源循環公社・資源循環局のご協力のもと、エネルギーについて学ぶオンラインエコツアーを 8/17 に東京都市大学 ISO 学生委員会と共催し、報告書'E'co-book を作成しました。HP チームでは、記事企画担当と防災担当に分かれ活動をしました。記事企画担当は、PJ の HP の運用、及び各チームの活動報告・メンバー執筆の記事を投稿しました。防災担当は、Twitter アカウント「はまみらい防災室」や HP の記事にて横浜地域に焦点を当てた災害情報を発信しました。my route チームは、トヨタグループさんの「my route」アプリを、学生という立場から良くするための活動をしています。横浜を舞台とした企画チケットの考案、建物の階層を簡易に示した RPG 地図の作成・実験など、幅広い活動を行っています。はまの架け橋チームは外部団体や地域とのつながりを作ることを目標として活動しており、今年度は UDC-SEA と横浜観光コンベンション・ビューローの 2 団体と協働を行ってきました。

来年度は新しく関わりを構築できた皆様とともに横浜の街をもっとよくなっていきます。また、HP 記事作成・RPG 地図開発も続けていきます。

- 学生：34名/担当教員：吉田聡、野原卓、松田裕之
- 連携・協力：UDC-SEA、神奈川トヨタグループ、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、公益財団法人横浜市資源循環公社、東京都市サービス株式会社、横浜市、横浜みなと博物館、Yocco18、横浜国立大学都市イノベーション研究院特任准教授有吉亮先生、東京都市大学 ISO 学生委員会、Yokohama Univer-City
- 活動地域：横浜海沿い地域
- サイト：<https://hamamirai.localinfo.jp/>, https://twitter.com/yoko_hamamirai?s=20, https://twitter.com/hamamirai_bosai?s=20



Yokohama Univer-City (YUC)



キャンパスデザインとコミュニティ創出によって 「大学をまちに開く」 Open our university to the city, by designing for campus and creating communities.

“Yokohama Univer-City(YUC)”は、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。横浜国大では都市圏の貴重な自然が保護されたキャンパスで、多様な人々による積極的な交流がなされています。この魅力的な常盤台のキャンパスを中心に、新たなコミュニティの創出や空間デザインの提案・実践を行なってきました。横国大から地域全体の価値を高めていく先にあるものとして、“Univer-City”という言葉掲げています。

ほぼ全ての活動は、所属メンバーの自主的な企画・提案によって進められてきました。キャンパス内の空間活用について、学生同士の勉強会や先生方との講習会の開催、まちづくりで実用化されているプレイスメイキングの手法の応用、104 スタジオ裏の草刈り、物々交換ブースの設置などを実施しています。また、YouTube 上での配信活動 (104uRADIO)、オンラインイベントの開催、ZINE の作成、コロナ禍における学生生活のアンケートの収集、地域課題実習ガイダンスの開催なども行なってきました。地域連携についての活動としては、常盤台連合町内会との便利マップの作成や、小学生向けのキャンパスツアーの開催などがあります。

今後は学生同士のつながりだけでなく、地域団体や大学運営との連携・協力関係を強化し、実空間を使った活動をポスト・ウィズコロナに対応しながら実践していきます。また、常盤台キャンパスに限らず、横浜中心市街地や地方部へと活動の幅を広げていく予定です。

- 学生：約20名/担当教員：三浦倫平
- 連携・協力：常盤台地区連合町内会/常盤台地区社会福祉協議会、共育会、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、横浜市ことぶき協働スペース
- 活動地域：横国大常盤台キャンパス周辺/都市科学部棟104スタジオ裏
- サイト：<https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>



ハマの屋台PJ Hama no Yatai



移動式屋台がまちの中につくる 空間の可能性をさぐる

Discovering the possibilities of spaces created by mobile stalls

まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。今年度は、新型コロナウイルスによる活動規制が緩和された11月以降、約1年半ぶりに現地活動が実現したため、昨年度以降参加したメンバーとともに屋台の可能性を肌で感じる機会を重視しました。

今年度は、計31名のメンバーを常盤台と関内の2チームに分け、それぞれのフィールドで活動しました。関内・関外地区においては、11月3～7日に行われた「関内外 OPEN!13」への参加をはじめとして関内桜通り・大通り公園と、様々な場所へ活動を展開しました。常盤台地区においては、常盤台の地域を街歩きし、街で屋台を使って何ができるかの可能性を話し合いました。

関内・関外地区においては、引き続き「関内わごん」を用いた空間づくりを模索するとともに、コンパクトで使いやすい新たな屋台の制作も検討しています。常盤台地区においては、以前製作し、運用してきた「ほどわごん」を再始動し、既存屋台の屋根作りのワークショップを企画し街の人と一緒に制作し、使っていくことを考えています。

また、相鉄線南万騎が原駅近くのまちづくり拠点「みなまきラボ」にて運用されている「みなまきわごん」の2号機制作も予定しています。

- 学生：31名/担当教員：野原卓
- 連携・協力：常盤台地区連合町内会、みなまきラボ、ゆたかなイばしょ運営委員会
- 活動地域：常盤台地区、関内・関外エリア、相鉄線南万騎が原駅周辺
- サイト：<https://www.facebook.com/hamanoyatai/>



SSUI-yokohama PJ Students' Society for Urban Issues



学生が主体となり 横浜のまちづくりについて学び・考える

Students take the initiative in learning and thinking about urban development in Yokohama

SSUI-yokohama PJでは、「これからのまちづくりの主役は学生であり、そこに分野の制約があってはならない」という考えのもと、大学生・大学院生が大学や分野の枠を超えて集まり、横浜のまちづくりについて学生が主体となって考え、提案を行っている。課題発見から解決策の提案まで一貫して行うことで、講義や演習の中で十分に培うことのできないプランニングマインド感覚を身につけることを目的としている。

本演習ではメンバー全員でテーマを創出し、そのテーマごとに班単位で活動を行っている。2021年度は、勉強会班、バス停班、地域活動班に分かれ、活動を行った。月2回程度 Web 会議や調査を行っている。3月には本活動の成果を地域の方などに披露するフォーラムを企画している。

- ・勉強会班：学術的なアンケートについて、実際に作成されている方を講師にお招きし、実例とともに、その作成方法を学ぶ機会を企画・運営した。
- ・バス停班：国交省より危険なバス停とされている「釜台住宅第一」を対象に、周辺の公園を活用した改善案を作成し、横浜市・相鉄バスに発表を行った。
- ・地域活動班：地域拠点「さくら茶屋」を活用したシェアオフィスの運用方法について、学生の立場として、意見や課題の創出などを行った。

今年度から地域課題実習に参加したPJであり、今年度は準備期間の部分が多くあった。来年度は、今年度の活動を引き続き行い、産学チャレンジプログラムへの参加など、まちづくりに関する活動をさらに積極的に行っていきたいと考えている。

- 学生：13名/担当教員：尹 莊植
- 連携・協力：横浜市都市整備局、LLPまちテラス、西柴シェアオフィス研究会
- 活動地域：横浜市保土ヶ谷区常盤台、金沢区西柴
- サイト：<https://sites.google.com/ssui.info/ssui/home>



New New-Town プロジェクト New New-Town project



地域の人のヨリドコロをめざしてニュータウンの 空き店舗活用 Creating a space that anyone in Makigahara can easily drop by.

オールドタウン化しつつある郊外のベッドタウンを、豊かなニュータウンに再編することを目標に、まちづくりの拠点「みなまきラボ」と協働して、地域資源である商店街の活性化に取り組んでいる。まちが再び活気を取り戻すためには、地域の中でコミュニケーションが生まれることや、自分の住むまちの魅力を発見できることが必要だと考え、通り過ぎてしまいがちな商店街に、気軽に立ち寄れるような自由で開かれた空間を作ることを今年度の目標とした。

実現にあたっては、万騎が原中央商店街の空き店舗をお借りし、①万騎が原地域の写真の展示、②子どもが自由にお絵かきできるスペースの設置、③商店街の店舗やプロジェクトを紹介する掲示板の設置、④書き込みができるマップの設置、⑤サポートセンター連さんのパン・焼き菓子・手作り雑貨の出張販売、の計5つの企画を行った。また、広報のため、チラシやSNSアカウントを作成し、準備期間や企画実施の様子などを発信した。

昨年度までに比べ、長期間かつ多世代を対象とした企画を行ったことで、地域の方々の多くが、自分たちの暮らすまちの現状に対して危機感を持ち、盛り上げていきたいという想いがあることが分かった。また、SNSを通じて、同じように地域を盛り上げたいという方々とも交流することができた。今後は、今年度交流できた方々と共に企画を行うことで、地域の方々の要望に添った空間、さらに地域の方同士が交流できる空間を提供していきたいと考えている。

- 学生：13名 / 担当教員：野原卓
- 連携・協力：万騎が原中央商店会、サポートセンター連・こんがり工房、(株) 浜建設、(株) オンデザインパートナーズ、横浜市・相鉄グループ(相鉄いずみ野沿線 次代のまちづくり)
- 活動地域：二俣川～南万騎が原
- サイト：<http://ynunewnewtown.wixsite.com/webside>
- WEB版マップ：<https://makigahara.wixsite.com/makigahara>



ワダヨコ WADAMACHI & YNU



学生と街の人で地域を活性化させる Activate the Community with Students and City People

2010年に学生が主体となって設立された団体で、以来、学生自身が街の方と触れ合いながらイベントの企画から運営まで行っています。

活動目的は、地域とのきずなを深めること、それに和田町の魅力を伝えることの2つです。和田町に住む地域の方々と大学生との交流の場を築くことで、互いに関わるきっかけをつくり、和田町の「地域的魅力」を向上させます。そして、その魅力を知ってもらえるように様々な媒体から情報を発信していくことが目標です。

年に数回、地域のイベントの企画・運営に携わっています。2021年度は和田西部町内会と共同で、和田町地域の一時避難場所を回るクイズラリー、子どもたちがキャンパスに塗り絵をするキャンパスアート、夕方にはキャンドルナイトを開催しました。なお、YouTube「ワダヨコチャンネル」で避難場所の紹介をしています。また秋祭りやお餅つき大会にもお手伝いとして参加しました。和田町商店街との連携では、アーケード改修に合わせて商店街内の数店舗を回るクイズラリーを行いました。景品として学生が作成した和田町特製タオルを用意しました。さらに月に1度、去年度からはオンラインで、ワダヨコの学生、横浜国大の先生、街の方の3者協議「タウンマネジメント協議会」を開催しています。

2021年度は新型コロナの影響で商店街の大きなお祭りが実施できず、学生が主催して行うイベントも数が減ってしまいました。今後新しいメンバーでコロナ前を超えられるような活気のあるイベントをつくり、その過程でワダヨコメンバーを含む学生、街の住民の方、町内会、商店街の皆さんを巻き込んだネットワークを作りたいです。

- 学生：25名 / 担当教員：野原卓、(タウンマネジメント協議会で)佐土原聡、高見沢実
- 連携・協力：和田西部町内会、和田町商店街
- 活動地域：和田町
- サイト：<https://www.wadayoko.com/> twitter:@wadayoko_tw

まちに開いた交流の場のデザイン Designing an interactive place open to the community



学生と街の人で地域を活性化させる Facilitating the exchange between university students and the locals

私たちが活動の場とする「CASACO」は二軒長屋を改修し、2階をシェアハウス、1階をを地域に開いた場として2016年4月にオープンしました。このプロジェクトではこのCASACOの一階を活用して、この場所が立地する東ヶ丘の人々や大学生などの様々な人が交流することができる場所の創出の方法を考えます。

今年度は定期的にミーティングを行うとともに、所属する学生でCASACOが位置する地域周辺のまち歩きの実施と昨年に引き続きCASACOの断熱改修のための実験を行いました。ミーティングでは活動が制限される中でも大学もしくはCASACOにおいて、今後の実施を考えるイベント等の話し合いを行いました。まち歩きでは学生を複数のチームに分け、CASACO周辺の地形の調査や文化施設へ赴き、その内容をまとめるとともに、今後企画するであろうイベントにどう繋がられるかをそれぞれで考えました。断熱改修のプロジェクトでは昨年から引き続き、CASACOの開放された1階のスペースをそのまま維持したまま、寒さ対策として効果的な断熱の方法を考えました。開放的な空間の維持のために採光性を高めながら断熱を図ることができるに布の利用を想定し、12月には様々な種類の布を用意してCASACOでそれぞれの布の特徴を調べるための実験を行いました。

来年度以降は今年度の活動を活かしてイベントの企画を考えています。まち歩きを通して考えたことや、大学で専攻している内容を基に大学生と地域の人が交流を図れる場所の創出を目指します。

- 学生：18名/担当教員：江口 亨
- 連携・協力：CASACO (カサコ)
- 活動地域：横浜市西区東ヶ丘

サコロボ sacolabo



国大生と左近山のコラボで ミライをデザインします Collaboration between YNU students and the Sakonyama community design the future of sakonyama

左近山団地を拠点に、住民と協働し若者ならではの視点で地域活動を行う横浜国立大学の学生団体「サコロボ」。

2020年までは団地に入居する学生(左近山団地大学生入居事業)が中心となり活動してきたが、今年度から「地域課題実習」として入居学生以外も参加可能に。文系・理系の様々な専攻分野の学生たちが集い意見を交わすことで、新たな発想や活動の展開が期待される。

地域のステークホルダーと協力しながら、教育/福祉/防災にまつわるイベントの企画/提案/運営をしている。大学生居住事業による「住んでいる学生」と地域課題実習を中心とする「通いの学生」が、地域との信頼関係の構築/大学生ならではの自由な発想でお互いに補完し合うことで、地域と協働しながら新しいイベントなどを生み出している。

具体的な今年度内の活動としては、商店街と連携しての夏祭りでの「大学生を探せ」企画やお祭りの場をお借りして起震車や煙体験防災ピザ窯のWSをプロデュースした「防災フェス」、左近山団地連合自治会と連携した「ピザ窯作成WS」、ケアプラザと連携した「茶話会」企画など、まだまだこの場では紹介しきれないが、多様な世代と関わられるように学生発の柔軟なアイデアをいくつか企画させていただいた。

地域課題実習サコロボを通して、左近山の関係人口を増やしたり、研究機関と協働したり通いの学生から住んでる学生に変わる学生が出てくることで、長期的な視点で左近山の将来像を描いていきたい。

- 学生：17名/担当教員：藤岡泰寛
- 連携・協力：NPO法人オールさこんやま(連携)、左近山ショッピングセンター/ケアプラザ(企画ごとのアドバイス等)
- 活動地域：横浜市旭区左近山団地
- SNS：facebook ID:@sacolabo Instagram ID:@sacolabo.dan-chi2021_



コットンおとなりさんプロジェクト Cotton Otonarisan Project



高層マンション群の住民が、
おとなりさんと繋がることのできる居場所を
To create a place where residents of high-rise apartments can
connect with their neighbors

現在、都心部への人口集中を背景に、マンションの増加が目立っている。また、高齢社会となっている日本では、住民間の助け合いが以前より一層重要になってきた。そこで本プロジェクトは、横浜市の都心部にあるコットンハーバー地区というタワーマンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティを作ることを目的に活動している。

私たちは、主に地域の団体や自治会と協力して活動している。その中でも CCT(コットン・コミュニティ・タウン)はコットンハーバー地区の多世代交流に貢献している団体である。2021年度は CCT、そして子どもたちが誰でも参加できる自由な遊び場であるプレイパークの知名度をあげるために、公式 LINE を創設し、イベントの告知や団体の詳細についてのメッセージを配信した。CCTのイベントである CCT パークの中でスマートフォン講座も行い、訪れた方に LINE の友だち登録の仕方やメッセージの送受信について説明した。さらに、プレイパークには実際に参加することで魅力や課題に気づくことができた。これら以外にも高齢者の新型コロナウイルスのワクチン接種予約サポートも行うなど柔軟に活動できたと考えている。

2021年度はコロナ禍ではあったが、オンラインや対面の両方の良さを生かして活動ができた。今後は今までの活動に加えて、住民が気軽に訪れることのできる居場所づくりや、より住民が安心して暮らすことができるように、防災や交通ルールについてのイベントや情報発信なども行っていきたい。

- 学生：10名/ 担当教員：関ふ佐子
- 連携・協力：CCT、各自治会、防災を考える会
- 活動地域：コットンハーバー地区
- サイト：<https://cottonct.org/>



南米につながる子どもたちとの横浜 「共生」プロジェクト Yokohama Inclusion Project – Working with Latino Children



差異を超えてみんなが集まる場所の構築
Creating a place where everyone gathers with overcoming
differences

横浜には様々なルーツを持った人々が居住しています。横浜国立大学から北西約 28 キロに位置する県営笹山団地は、高齢者や外国にルーツのある方々が多く居住しています。2年間の調査を経て、以下の課題がみえてきました。1) コミュニティに元気がなくなってきたこと、2) 外国にルーツを持つ子どもたちとの共生の困難さ、3) 高齢者の方々の生活の質の保障などです。本プロジェクトチームは、関係者と連携し、地域の方が集える、地域の子どものための場所を設置し、運営することを目的として活動を準備してきました。

春学期は以下のことを実施しました。1) 笹山団地に住む様々なルーツを持った子どもたちへの学習支援を行うため、大和市青少年相談室の方の講義を受講。2) 団地を訪問し、笹山保育園園長、自治会や生活援助員 (LSA)、笹山地区社協、地域ケアプラザ、保土ヶ谷区社協、神奈川県他多様なアクターへのインタビューの実施。3) 団地の自治会館見学。4) NPO との協議。これらの活動を通し、外国にルーツがある子どもの学習状況や高齢者の抱える課題などを把握するとともに、自分たちにできることについて議論してきました。

秋学期は以下のことを実施しました。1) 団地の自治会館 2 階の利用案について構想を練る。2) 団地の一部の空室利用と団地に住む方々との交流イベントについて意見交換。3) NPO との協議。本年度中に各組織と連携し、笹山団地内に机・椅子等を配置し、居場所を準備します。

2022年度の方針は以下になります。1) 引き続きアクション・リサーチを行い、地域の課題を短期・中期・長期的に分析する。2) 神奈川県や自治会、横浜で活動する NPO と共に外国につながる子どもたちへの学習支援、高齢者の方々との交流を軸としたプロジェクトを実行する。3) 中期・長期的な笹山団地の開発計画に参画する。これらを通し、差異を超えてみんなが集まる場所の構築と総合的なサポートを可能にする空間をつくります。

- 学生：12名/ 担当教員：藤掛洋子
- 連携・協力：神奈川県公共住宅課、保土ヶ谷区役所、保土ヶ谷区社会福祉協議会、県営笹山団地自治会、笹山保育園、認定・特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金他
- 活動地域：保土ヶ谷区域内他



県在住ブラジル人生徒の学習支援 Learning support for Brazilian students living in Kanagawa Prefecture



外国につながる子どもが 楽しく集まって学べる居場所を

Providing for a cozy place for the children connected to foreign countries to get together and study with

神奈川県は全国で4番目に在留外国人が多い地域であり、中でも横浜市鶴見区は県内で2番目の外国人居住地域である。県在住外国人の支援に参加することで、多文化共生の課題や行政上の課題を学ぶことを目的としている。

鶴見区にある小学校で、外国につながる子どもへの放課後学習支援教室が開かれており、そこにボランティアとして参加し、小学校1年生～6年生の児童の宿題学習の補佐や見守りをする。外国につながる子どもの中には、親が共働きで家に帰っても宿題の面倒を見てくれる人がいない、親が日本語がわからず宿題を教えてもらえないなどの子どももいる。算数や国語の宿題に取り組む児童たちとコミュニケーションをとりながら、必要な知識を教え、やる気を持って取り組めるようサポートを行う。12月には、クリスマスイベントとして、子どもたちと家族へのクリスマスカードの作成を行なった。

また、多文化共生の課題を学ぶため、静岡県の国際交流会と浜松市の国際交流協会（HICE）の方に取材をし、行政の取り組みや現状の課題についての理解を深めた。

在留外国人は国内に増えていくことが予想され、それに伴い、外国につながる子どももますます増えていくと思われる。日本語が不自由な児童や、宿題を見守る存在のいない児童にとって、このような支援の場は学校生活を送る上での支えになる。また、子どもにとって、親や先生以外の大人である大学生との交流は、ロールモデルを見つけ、将来の目標や夢を持たせる意味も持つ。今年度は、募集の時期を越えての結成のため人数が少ない中で運営を行なった。来年以降はもっと多くの生徒が関わるプロジェクトにしていきたい。

- 学生：2名 / 担当教員：山崎 圭一
- 連携・協力：NPO法人ABCジャパン、横浜市立入船小学校
- 活動地域：横浜市鶴見区



再エネの地産地消を軸とした 循環型地域経済のデザインPJ Circular Eco Project



循環経済 × 循環資源 Circular Economy and Ecology

地域経済循環の停滞が進む中、その解決に向けてエネルギーが大きな鍵となる。再生可能エネルギーの地産地消を核に、資源・人・サービスが地域内で循環するシステムをデザインし、地域経済の活性化を目指す。

春学期は、自分たちにエネルギーや経済循環の知識をつけるために、ポर्टランドや再生可能エネルギーについての勉強会、富山県南砺市井波のジソウラボメンバーの林業家の島田さんとの座談会、岡山県真庭市のバイオマス発電・CLT木材等の情報シェア座談会、自然エネルギー財団でバイオマス発電を研究されている相川さんとの座談会を行った。また、自分たちの活動目的である、「小さな循環による地域デザイン」を2013年度から目指している富山県エコビレッジ推進課との連携の準備を進め始めると同時に、自分たちの活動を紹介するHPやロゴの作成等に注力した。秋学期は、南砺市エコビレッジ推進課の座談会で引き続き知識をつけると同時に、南砺市から実際に南砺産ペレットを送ってもらい、自分たち各個人でペレット焚き火台を購入して、実際に実験するなどして、ペレットの活用方法を模索した。また、南砺市世界遺産五箇山で開催される「相倉合掌造り集落ライトアップ」イベントに向けて、ペレットの素晴らしさをより多くの市民の方々に知っていただけるように、HPやQRコードの作成、インスタ Liveの手配を行い準備を進めた。

ペレットを作っている生産者の方々にインタビューするなどして、なんとペレットのブランディングを進め、地域内循環という考えを市民の方々に広めていく。

- 学生：12名 / 担当教員：山崎満広
- 連携・協力：南砺市エコビレッジ推進課、Mitsu Yamazaki, LLC、ジソウラボ
- 活動地域：富山県南砺市
- サイト：<https://circular-eco.wixsite.com/website>



ローカルなマテリアルのデザイン The Design of Local Materials



地域に根ざした素材の利用 Making use of materials rooted in local areas

地方の人口の過疎化に起因する里山の放置林の増加により、生物多様性喪失などの環境問題が発生すると言われている。そこで本プロジェクトはこの放置林等の森林に占める割合が半数以上の広葉樹に着目した。広葉樹は総じて固く重いため加工がしにくく、一般的に利用されづらいが、広葉樹ならではの利点や特性を見直し、それらを活かした制作活動を行うことで問題の解決につなげることを目的・目標とした。

本プロジェクトは昨年度の活動を引き継ぎ、一年を通し神奈川県に多い広葉樹を用いたツール・ベンチ等の制作活動を行った。昨年度同様、公共空間に設置することを目的とし、ツール・ベンチのもたらす空間設計及びデザインの変化に重きを置いた。それぞれの学生が独自のツール・ベンチのデザイン提案を行い、担当教員や美術科の教員とその実現可能性を検討し、秋学期に本格的な制作を開始した。木目の入り方、木材ごとの色、木皮のテキスチャーなど、木材の様々な要素を検討しつつ、それぞれが考える木材本来の良さが一番引き立つ形を思索した。また、鉄製の脚部アタッチメントと木材という材質の異なるマテリアルの調和をも考慮し、デザインを行なった。

今後の可能性としては、「座る」以外の社会活動にも着目し、それを広葉樹というマテリアルで吟味していき、活用の幅を増やすことを目標とする。このエキスパンションにより本プロジェクトが広葉樹による空間構成のあり方の再検討と、上記に記した環境問題及び廃棄問題の解決を促すことを期待する。

- 学生：11名/担当教員：志村真紀、原口健一
- 活動地域：神奈川県
- サイト：Instagram：タグ「#ローカルなマテリアルpj」



アグリッジプロジェクト Agridge Project



地域連携の深化 ～分野を横断した地域モデルの開拓～ Developing the Local Relationships -cultivating the community model crossing fields-

『農業による地域活性化』これが私たちの掲げる理念だ。これに対して私たちはビジネス・地域コミュニティ・技術開発の3つの観点から日々アプローチしている。

今年度の活動を通じて私たちは新たな関係性を築くことができた。ビジネス面では、柑橘類の生産過程で発生し廃棄される摘果青みかんに注目した。これまで関わりのあった生産者や里山保全団体の方から青みかんを仕入れ、それをを用いた商品を企画。食品ロス解決の中で、県内飲食店の炭火焼肉大将軍や社会福祉法人の開く会、トロワランドとの関係性が生まれた。これまで関わりのなかった福祉分野の方々との連携に、関係先の広がりを実感するとともに、他分野と農業を掛け合わせたビジネスモデルとして意義を感じている。地域コミュニティ面では、植え付けや収穫といった畑作業のタイミングで、子どもからご年配の方々と交流した。上記のビジネスを通して新たに繋がった方々にもお越し頂き、野菜作りに触れてもらう機会を提供できたように思う。そして和田べんPJから引き継いだ弁当販売事業は、地域連携の深化において今年度を代表する取り組みとなった。私たちが育てた野菜をお弁当に使用してもらうことで、これまで限定的であった販路を拡大するだけでなく、和田町商店街との連携に繋がった。さらに活動PRの機会としてInstagramの活用やHPの見直しにも取り組んだ。これまでの連携先をHPにて紹介するコーナーの設立やプロジェクトの活動をまとめた広報誌の発信にも着手した。

昨年度に構想していた地域連携の取り組みを広い範囲に渡って実施できた。来年度に向けて現在連携している関係者の方との活動をより深めていきたいと思う。

- 学生：21名/担当教員：池島祥史,小林誉明
- 連携・協力(敬称略)：藤巻芳明,常盤台コミュニティハウス,常盤台地区連合町内会,横浜ビール,上岡食品,川久保和美,矢郷農園,佐野ファーム,NEWoMan横浜,炭火焼肉大将軍,社会福祉法人開く会,障害福祉サービス事業所トロワランド,パニヤンツリーベーカーリー,FM上星川,曾我山応援隊,ひまわり亭,アジアンキッチンわだ,TSUBAKI食堂
- 活動地域：学外農地,横浜市(保土ヶ谷区他),川崎市,小田原市上曾我地域
- サイト：<https://agridge-chiikasseika.localinfo.jp/>



おおたクリエイティブタウン 研究プロジェクト Ota Creative town research project



モノづくりのまちづくり～工場のまちの魅力を次 世代に継承する～ Town planning utilizing manufacturing -Passing down the charm of the factory town to the next generation-

大田区は中小の町工場が日本一集まる街として、工場を中心に地域のコミュニティが形成されていました。しかし近年、後継者不足などで工場が廃業、その跡地に住宅が建て替わり、地域外から移り住む人が増えています。その中で工場と住民の関係希薄化や、工場数の減少による街の個性の消失が危惧されています。そこで私たちは「工場と住民が良好な関係を築き、誰もが気軽にモノづくりを楽しめる街」を目指し、モノづくりを活かしたまちづくりに取り組んでいます。

大田区内の町工場を一斉公開し、見学や体験を提供するイベント「おおたオープンファクトリー」に学生企画で参加しています。今年は3つのオンライン企画と8つの多彩なツアーを実施。その中で私たちは「下町風情や創作活動に関心ある方向けに」モノづくりのまちに住みたくなるツアー」を企画・実施しました。

①インタビュー記事作成・まちの日常風景紹介
ツアー参加者へ事前に街の雰囲気伝えるコンテンツをWEBページで公開しました。

- i) お住まいの方・町工場の職人から見た町の様子を伺ったインタビュー記事
- ii) 街の日常風景を撮影し、「町工場」や「生活の風景」などテーマごとに紹介

②ツアー実施
モノづくりのまちの魅力が体感できるルートでTシャツ工場や建築設計会社、地元の酒屋、地域の交流拠点の4つのスポットを訪れ、10名の参加者と工場見学やモノづくり体験をしました。

③ツアー冊子作成
ツアー参加後も町に興味を持ってもらえるようルート・スポットの紹介や様々なライフスタイルの提案、コラムなどを詰め込んだ冊子を作成しました。

今までの活動を継承・発展し、地域住民が日常的に街の魅力を感じられる「地域への浸透」や、他団体とも連携し大田区全体へ「活動規模の拡大」を図ります。

- 学生：7名/担当教員：野原卓
- 連携・協力：一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター、一般社団法人大田観光協会
- 活動地域：東京都大田区（特に、東急多摩川線武蔵新田駅・下丸子駅周辺）
- サイト：<https://www.o-2.jp/mono/oof2021/>



みなとまちプロジェクト The Port City Project



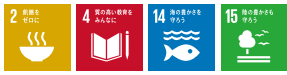
清水での実装を通じた ブランディング・エッセンスの魅力発信 Spreading the attraction of Shimizu, "branding essence," through field activities

みなとまちプロジェクトは、清水というみなとまちにフォーカスし、その継続的な調査およびエリアブランディングに向けたまちづくり活動を行うプロジェクトです。地域の魅力を抽出した「ブランディング・エッセンス」を活かし、地域の人同士や清水を訪れる人との交流の活性化や地域産業の発展を目指しています。今年度は、昨年度も行ってきた「Shizuoka Teatism」「清水次郎長」「チャバコシカケ」の3つの活動に加えて、プロジェクトの活動を紹介する動画制作も行い、清水ならではの魅力をより伝えることに力を入れました。

Shizuoka Teatism 班では、7月に横浜ビブレ前で実施された「さすてなぶる縁日」に参加し、有機栽培茶を販売しました。また、11月に清水の次郎長通り商店街で行われた「じろちょうマーケット」では、清水次郎長班が次郎長茶の販売と清水次郎長の功績を伝える資料の展示を、チャバコシカケ班が茶箱ベンチの実験的な設置を行いました。活動を通して現地の人々と関わり、反応を見ることで、自身の活動が地域と結ばれているという実感を持つことができました。

活動全体を通しては、昨年オンラインの状況下で取り組んだ制作物を活かしつつ、それぞれのブランディング・エッセンスの発信を強化できた1年でした。来年度以降は、お茶の販売のオンライン化や茶箱と次郎長茶のコラボレーションなどを通して、清水の魅力を発信する方法を模索していきます。

- 学生：19名/担当教員：志村真紀
- 連携・協力：常葉大学、東京大学、九州大学、茨城大学、静岡理科大学、静岡市経済局海洋文化都市推進本部、静岡県清水港管理局、ぬくもり園、次郎長と港を活かした清水活性化協議会
- 活動地域：静岡県静岡市清水区
- サイト：<https://www.ynu-minatomachipj.com>



都市の自然を楽しむライフスタイル —身近な自然の発見— The lifestyle to enjoy nature of the city



自然体験を通じてこれからの都市と 自然の共存について考えていく

Covid-19の流行により、都市部に住んでいる人々は自粛を求められる時間が多くなった。そのような期間でも快適に生活するために、自然と触れ合うことが大切であるように思う。そのため都市部の自然は私たちにとって重要なものであり必要不可欠な存在である。私たちは気軽に誰しもが参加・体験できる野外フィールドワークを行うことで、都市の中の自然の重要性を再認識しこれからの都市の在り方について考えていく。それがこのプロジェクトの目的である。

- ・ミーティング、勉強会（毎週水曜の昼休み）
野外での演習
- ・潮干狩り（2021年6月26日 海の公園での実施）
- ・葛布のコースターづくり（2021年11月6日 学内実験室での実施）
- ・釣り体験（2021年12月11日 赤レンガ倉庫付近での実施）

今回の体験から都市部の自然の重要性と魅力を学びました。日常の中で気づきにくいけれども私たちは自然と関わりながら生活しています。この今ある自然を大切に後世に美しい自然を引き渡せるようにこれから努めていくのが私たちの役割です。皆さんも一度自然との共存について考えてみると新たな発見があるかも知れません。

- 学生：16名/担当教員：小池文人
- 連携・協力：
- 活動地域：横浜市

後援：横浜国立大学 校友会

地域実践アワード

Award

- MVP -

はまみらいプロジェクト
アグリッジプロジェクト

- 準 MVP -

Yokohama Univer City (YUC)

- 地域賞 -

はまみらいプロジェクト

- 学生賞 -

アグリッジプロジェクト

- 校友会賞 -

はまみらいプロジェクト

- ・ MVP・準 MVP：総合投票サイトから投票頂いた「全体の総数」
- ・ 地域賞：地域賞限定の投票サイトを通じた「総数および評価点」
- ・ 学生賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生」による総数
- ・ 校友会賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生以外」の総数

地域実践アワードのシンポジウムの様子は、
YouTube サイトにて公開しています。
<https://youtu.be/DjjZooCfrDQ>



Topic テレビにおける「地域課題実習」の紹介・放映 BS テレビ東京：日経プラス9 「チーム池上が行く」コーナー

2021年12月17日、24日、2022年1月7日の3回にわたり、日経プラス9 「チーム池上が行く」コーナーにて、地域課題実習の活動の様子として、おたクリエイティブタウン研究PJ、アグリッジPJ、ハマの屋台PJが紹介されました。

<池上彰さんからのコメント>

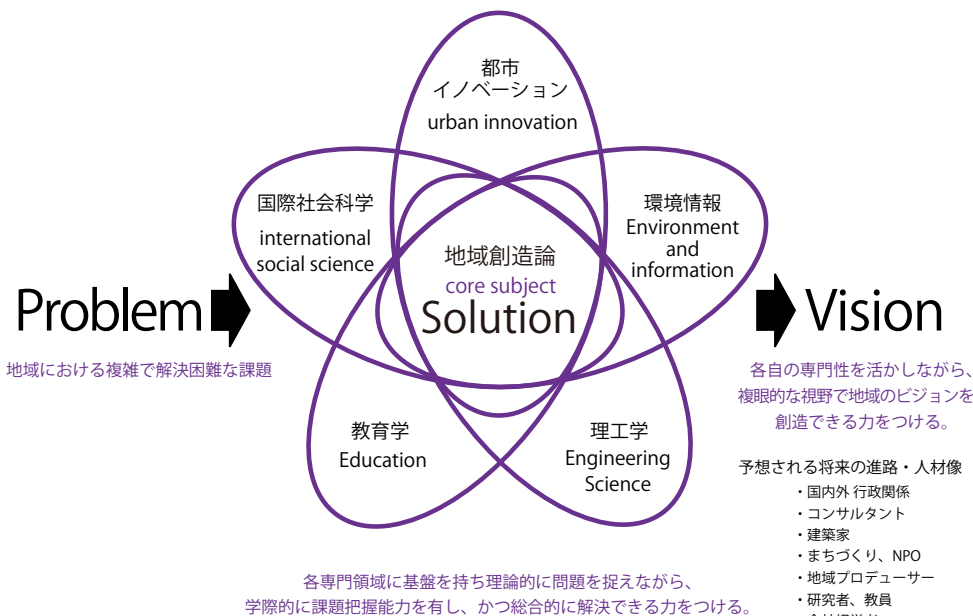
「授業の一環だと説明がありましたね。まるでクラブ活動のようにも見えますし、大学院生も結構参加していますね。本来の授業としての単位の修得が終わったあとも活動している状況があり、それだけの継続性があると思います。

今、全国の大学が地域のなかで大学の存在価値が何だろうか、というのを考える時期になってきている中で、地域を盛り上げる、といった取り組みというのを本当に注目すべきだと思いますし、『活動のなかで、生きる力や人間の心理というのはどんなものだろうか。』というのを実践的に学ぶ、ということができないのではないか、と思います。」

■ 地域創造科目について / About this program

大学院生を対象とした副専攻プログラム「地域創造科目」は、「複雑で解決困難な地域課題を題材に、各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム」です。2011年度から開講しました。

Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.



■ コア科目：地域創造論 / Globalized Local Studies テーマ：「次世代の横浜・神奈川地域像を素描する」

地域創造論のテーマは3カ年毎に設定し、これまでに「ポスト 3.11 の新しい地域像」、「ローカルからの発想が日本を変える、世界を変える。」、そして「地域はどう変わるか 2010年代から 2020年代に向かって」としてきました。2021度からは、さらに先の時代に向かって地域創造ができるように、テーマを「次世代の横浜・神奈川地域像を素描する。」と設定いたしました。前半においては各専門の観点から地域課題を学び、後半は学生が学際的なチームに分かれてグループワークを行い、新しい地域創造に向けた提案・提言を行っています。

■ 講義



ビジョンと政策
～エビデンスにもとづく政策形成～

小池治



神奈川県政にみる長期ビジョンとアクション
～水源環境税・「千年の森」などを題材に～

蛭名喜代作



成熟社会のビジョンとアクション

関ふ佐子



地域産業構造分析の概念と応用
～相鉄線・JR 直通線と羽沢横浜国大駅の
効果測定を事例に～

居城琢



横浜都心臨海部のビジョンとアクション
～インナーハーバー構想と創造界隈を事例に～

野原卓



横浜市
～SDGs への取り組み～

信時正人

■グループワーク / Group Works

山期待町 ～山北町を舞台にした林業の未来～

長瀬駿之介 (理工) / 中村愛 (環境情報) / 近藤沙紀・池内瑛美 (都市イノベ)

山北町は面積の約90%に林野を抱え、2050年には人口が半数に減少するとされている。また、林業の担い手は不足し維持管理コストの増加が問題視されている。そこで、点在するステークホルダーを繋ぐプラットフォームを作りこれら課題を解決したい。その取組は、スマート林業による1.山林維持管理の効率化支援、2.木材利用事業におけるマッチング交流支援である。これら取組によりスマート林業を利用した新規事業立案等を支援し、林業を通じた山北町全体の発展を図る。また、マッチング交流支援の場として、開放的な場であることから保全活動の場を提案する。これらにより「林業といえば山北」といわれるような「山期待町」となることを目指す。



団地内コミュニティを中心とした居場所と生きがいのある地域- 県営阿久和団地を対象として -

劉彬 (国社) / 中島聡志・三浦遼太郎・森井明美・奥野慎 (都市イノベ)

居場所と生きがいの重要性が福祉の現場から主張されている。私たちは、県営阿久和団地を対象に、団地内コミュニティを中心とした居場所と生きがいのある地域の実現を目指した。現実空間では、団地の広場や公園を活用した園芸・ボール遊びの場、グループホーム (認知症高齢者施設) への夜の子ども食堂の設置などを提案し、多世代の交流増加や子どもの孤食解消、高齢者の生きがい増加を図った。仮想空間では、メタバースの導入を提案し、会話の難しい障がい者や外国人、移動の難しい高齢者でも住民活動に参加し、居場所を感じられることを図った。そして、これらの取組を組み合わせ、仮想空間での交流が現実空間での交流を増加させることを図った。



持続可能な観光地 ECOSUKA

深澤菜 (環境情報) / 齊藤彩乃・陳晨曦・松本峻太郎 (都市イノベ)

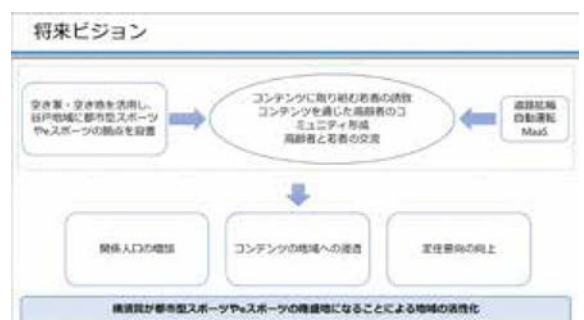
観光地である横須賀市の2050年カーボンニュートラルの達成のため、持続可能な観光地「ECOSUKA」を提案する。まず、既存の観光地での様々な取り組みにより、サステナブル化を促進する。次に、人口減少予想に基づき住宅をアクセスのよい地域に集約し、かわりに新たな都市計画区域として「エネルギー地域」を導入する。ここでは、再エネによる発電を行うとともに、新たな観光地としてエコパーク・エネルギーパークを配置し、第一次産業や豊かな自然、エネルギー産業についての体験学習を行う。さらに、再エネによる電力で運行する新たな交通システム「はれおかライン」によって、東西の住宅と観光地のアクセスを向上させる。



空き家とモビリティを活用した横須賀市の地域活性化策

池田恵人・磯本万葉・龍野杏奈・藤田匠・吉田宗谷 (都市イノベ)

郊外住宅地の空き家やモビリティの問題は全国に及んでいる。特に横須賀市の空き家率は神奈川県よりも高く、また、谷戸地域という地形的特徴がモビリティの問題を難しくさせる。その横須賀市は音楽・スポーツ・エンターテインメント都市を構想している。私たちの提案は、これらの立地、条件を活かして、若者を中心としたパルクールなどの都市型スポーツやeスポーツの拠点を設置し、コンテンツを通じた交流を図る。これらの交流を高齢者へと広げるためにも、自動運転や道路幅拓などを行いモビリティの問題を解消する。これらの取り組みにより、横須賀市がこれらのコンテンツの隆盛地になり、地域の活性化を図るとともに定住意欲の向上を誘発する。



郊外丘陵住宅地の移動について

谷口智洋・東野有希・堀田桃子・林俊宇 (都市イノベ)

私たちの班は、横浜市金沢区富岡町に着目した。この地域では郊外の丘陵地に位置し、傾斜が激しい坂が点在している。そういった利便性の低さと高齢化に伴って、若者が流出し地域衰退が進んでいる。私たちは、楽しい移動による地域活性化というビジョンを掲げ、車に頼らない生活の実現や地域の魅力を向上する取り組みを考えた。具体的には、電動シェアサイクルや電動車いす、カーシェアを促進し、地域内外への移動の利便性を向上することを考えた。また、空気を魅力あるコンセプトカフェに変えたり、ウォークラリーや移動販売のイベントを定期的に開催することで地域の魅力向上を図った。



-1. 研究の柱

地域実践教育研究センターでは4つの研究テーマの柱を設け、学内における学際的な研究活動を推進しています。

(1) 「住みたい都市」に関する研究

地域実践教育研究センターでは、「住みたい都市」を包括的テーマとして掲げ、教育・研究の推進を行ってきました。

「住みたい都市」が目されるのは、単にそこで暮らしたいばかりでなく、そのような都市で働きたいと思っている人々が多くなっていることと関係していて、結果的にそうした地域は経済的にも持続的に発展しているとみられています。



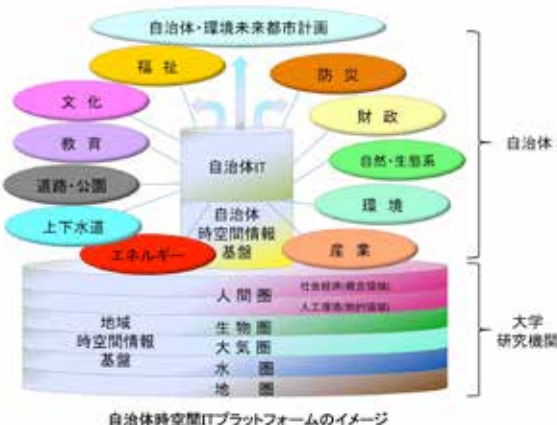
(2) 「防災・事前復興・復興」に関する研究

平成25年度から26年度の2年間にかけて、神奈川県の大発政策提案制度の採択事業として「県民総力戦による事前復興計画」について教員と学生の総計29名による学際的な研究を行いました。このなかで、県内で津波による被害想定が高いとされる逗子市においては、住民や市議会議員等による住民参加型の検討会・シンポジウム・ワークショップを重ね、具体的な政策内容が提案されました。2018年度には、逗子市における事前復興や防災に関する「津波避難シェルターの体験」をはじめ、講演やワークショップを数回にわたり開催されました。



(3) 「地球環境未来都市」に関する研究

地球環境未来都市研究会を設置して、地球環境の有限性をふまえた未来都市のあり方を研究しています。具体的には神奈川県拡大流域圏（水道による人工的な水の移動も含めた流域）を対象に、おもに横浜市と水源地域の都留市と連携して、実践的な研究を行っています。横浜市については、同市が進める「みなとみらい2050プロジェクト」に関連した研究を行うために、「エネルギーデザイン」「エコロジーデザイン」「モビリティデザイン」「ICTプラットフォーム」の各研究部会を設置して、みなとみらい21地区の将来像について検討しています。また、都留市については、エコミュージアムをはじめとした地域資源を活かすこれからの環境まちづくりに関わるさまざまな研究活動を行っています。

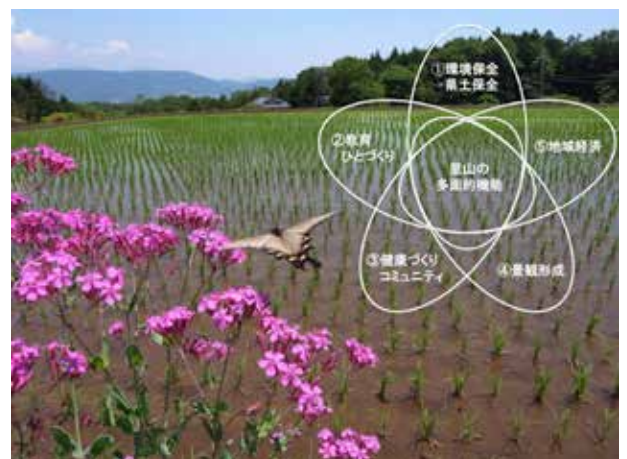


(4) 「里地里山」の保全効果に関する学際的研究

これまでに、神奈川県・大発政策提案制度において、神奈川県内の里地里山保全および広葉樹の活用に関する研究・活動が採択され、学際的な研究を実施してきました。

- ・2015-2016年度：未来につなぐ神奈川の里山 - 里地里山の保全効果に関する学際的な研究
- ・2019-2020年度：Woody ～広葉樹の活用による地域活性化と県民の健康増進～

2021年度以降は、地域連携推進機構のネクストアーバンラボにおける1つのユニット「里地里山×まちづくりラボ」として、活動の一端を継承しています。



-2. 地域研究

横浜国立大学 地域実践教育研究センターの関連教員を通じて集められた地域に関する研究です。

研究内容については「横浜国立大学 学術情報レポジトリ」のサイトから検索・閲覧できます。 <https://bit.ly/38vrszL>



| No. | 論文タイトル名 | 執筆者, 担当教員名 |
|-----|--|-----------------------|
| 1 | 地方在住／出身アーティストという文化資源—登録アーティスト制度から見た都道府県立文化施設の役割— | 丹羽梓, 小宮正安 |
| 2 | 都心の広場における居心地の良さをはかる新たな調査方法の探究 | 原田なつ, 佐藤峰, 三浦倫平, 野原卓 |
| 3 | 高齢者介護施設における高齢期の就労に関する研究 | 伊藤礼佳, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 4 | 丘陵住宅地における高齢者の外出行動に関する研究—鎌倉市今泉台及び横浜市栄区庄戸を対象として— | 梶木康平, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 5 | まちじゅう図書館によるまちづくりに関する研究—群馬県太田市・長野県小布施町を事例に— | 小林芽依, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 6 | ICTを活用した「個別最適な学び」と教室に関する研究—学校内オルタナティブ教育の観察調査を通じて— | 西村実貴, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 7 | 住宅の一部が地域に開かれる経緯と経年的変化に関する研究 | 久富有記, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 8 | 地域共同体の拠点の必要性について—山形県最上郡金山町における地区公民館等の利用実態— | 本松典夏, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 9 | 学校博物館を活用した地域回想法の可能性に関する研究—横浜市S小学校学校博物館での回想法の試行から— | 千葉汰一, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 10 | 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための施設機能に関する研究 | 本間世蓮, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 11 | 高齢化が進む郊外住宅団地における学生居住事業の効果に関する研究—事業開始から5年目を迎えた左近山団地を事例として— | 磯崎透子, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 12 | 郊外戸建住宅地の空き家の発生動向に関する研究—鎌倉市今泉台地域での継続調査に基づいて— | 内田貴則, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 13 | 肢体不自由生徒の高校進学・選択時に着目した高等学校のバリアフリー整備に関する研究—神奈川県内の高等学校を対象として— | 知念泰平, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 14 | 地域に密着した戸建て住宅型の障害者グループホーム整備に関する研究—横浜市を中心として— | 松田美紗, 大原一興, 藤岡泰寛 |
| 15 | 商店街における機能混在型まちづくりの戦略に関する研究—熱海銀座商店街を対象として— | 佐藤美那子, 江口亨 |
| 16 | 関係人口の増加におけるまちやどの効果に関する研究—熱海のguesthouse MARUYAを対象として— | 村上奈津季, 江口亨 |
| 17 | 夏季の温暖地域の小学校教室における自然通風と熱中症リスクに関する研究 | 大久保春香, 田中稲子 |
| 18 | 地震災害時の救助活動能力を考慮した地域評価と人命救助に関する災害対策の立案 | 喜納啓, 佐土原聡 |
| 19 | 都市内の小規模緑地における生物多様性と視覚的快適性に関する研究 | 柴田翔太, 佐土原聡, 吉田聡, 稲垣景子 |
| 20 | 横浜国立大学周辺の駅勢圏及び駅選択の要因に関する研究 | 小川裕生, 佐土原聡, 吉田聡, 稲垣景子 |
| 21 | 長野県佐久市における暖房エネルギーの木質ペレットによる代替可能性に関する研究 | 谷井謙将, 佐土原聡, 吉田聡, 稲垣景子 |
| 22 | 神奈川県西部の森林地域における土砂災害発生要因の影響度評価—令和元年東日本台風を対象として— | 今城裕里, 稲垣景子 |
| 23 | 津波避難対策に関する行政施策と住民意向の実態調査—沼津市第三地区を対象として— | 鈴木智陽, 稲垣景子 |
| 24 | 郊外住宅団地におけるコミュニティと防災・減災活動に関する研究—左近山団地を対象として— | 張叶橋, 稲垣景子 |

| No. | 論文タイトル名 | 執筆者, 担当教員名 |
|-----|--|--|
| 25 | 住宅地における道の前庭的利用とその要因について-本郷4.5丁目を対象として- | 川田真史, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 26 | 歩行者専用空間の貫通通路における滞留を促す要因に関する研究-渋谷駅周辺を対象として- | 木下凌太郎, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 27 | 人々の生活変化と地域愛着の関係に関する研究-コロナ禍の川崎市宮前区を対象として- | 小泉勇真, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 28 | 本を通じた新たな交流施設における交流の実態に関する研究 静岡県焼津市「みんなの図書館さんかく」を対象として | 長谷川帆奈, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 29 | 横浜創造都市づくりにおける地域交流型イベントの可能性について 関内外OPEN!について考察 | 的羽佑菜, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 30 | 地域で活動する団体が行うみちあそびイベントの運営に関する研究 | 森慧悟, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 31 | ターミナル駅における立体的オープンスペースの有効性についての研究 - JR 横浜タワーのオープンスペースでの滞在に着目して- | 黒川春香, 高見沢実, 野原卓, 尹莊植 |
| 32 | 横浜市関内地区におけるまちなか居住の実態と魅力の要因に関する研究 | 田代静瑠, 野原卓, 高見沢実 |
| 33 | 地方小都市における地域資源の重ね合わせによる拠点創出に関する研究 -伊豆の国市伊豆長岡地域を対象にして- | 塩濱宏己, 野原卓, 高見沢実 |
| 34 | 地域資源を教材化した住育授業の展開手法と教育的有効性に関する研究 -京都市立高倉小学校での町家を題材とした住育授業を対象に- | 濱陽一郎, 高見沢実, 野原卓 |
| 35 | 東京都区部における「新旧併存化地域」の実態に関する研究 | 平山知実, 野原卓, 高見沢実 |
| 36 | 神奈川県全市区町村間産業連関表の推計と分析 | 渡部凌斗, 居城琢 |
| 37 | 選択型コンジョイント分析による情報提供がバイオマスプラスチックの消費者選好に与える影響の分析 | 大本平太, 居城琢 |
| 38 | 中心市街地活性化法の現状と高崎市をモデルケースとした経済効果の分析について | 吉村啓, 居城琢 |
| 39 | 小田急多摩線延伸計画による相模原駅周辺地域への経済波及効果 | 都筑辰佳, 居城琢 |
| 40 | プラスチック資源循環に向けた廃棄物産業連関分析-環境・経済的波及効果と二酸化炭素排出量推計- | 堀内萌音, 居城琢 |
| 41 | イオンモール京都桂川による地域経済への波及効果 | 猪田尚希, 居城琢 |
| 42 | B'zの凱旋ライブが岡山県津山市に及ぼした経済波及効果 | 梅本彩華, 居城琢 |
| 43 | コロナ禍における横浜スタジアムでのプロ野球開催に伴う周辺の飲食店への経済効果 | 甲斐瑞稀, 居城琢 |
| 44 | 沼津市大瀬崎のダイビング経済の在り方 | 酒井俊志, 居城琢 |
| 45 | 産業連関表の経年比較を通じた千葉市美浜区(幕張新都心)の経済発展分析 | 島崎慎一, 居城琢 |
| 46 | 新型コロナウイルスが倉敷マスカットスタジアムに与えた影響 | 猶原彬, 居城琢 |
| 47 | 横浜F・マリノスの経済波及効果 | 吉田暁志, 居城琢 |
| 48 | 鹿児島市及び市街地の産業連関表の作成と分析 | 前田秀太, 居城琢 |
| 49 | つくば市の産業連関表の作成と研究所立地による経済効果について | 松本有矢, 居城琢 |
| 50 | 月割り延長産業連関表の作成と分析-コロナ禍による自粛開始からの1年間- | 井原有理, 矢野美月, 居城琢 |
| 51 | 横浜における東京2020オリンピック・パラリンピックの効果検証 | 内桶 達史, 大本 平太, 都筑 辰佳, 吉村 啓, 岡本幸喜, 猪田 尚希, 梅本 彩華, 甲斐 瑞稀, 酒井 俊志, 島崎 慎一, 猶原 彬, 長藤 慶, 萩 海渡, 畑 慎太郎, 藤井 陽介, 松本 有矢, 吉田 暁志, 前田 秀太, 居城琢 |
| 52 | 新型コロナウイルスの影響による、横浜 DeNA ベイスターズ ホームゲーム観客数制限が横浜市に与える経済的影響 | 内桶達史, 居城琢 |

地域連携推進機構

Organization for Local Collaboration Networking



地域連携推進機構について

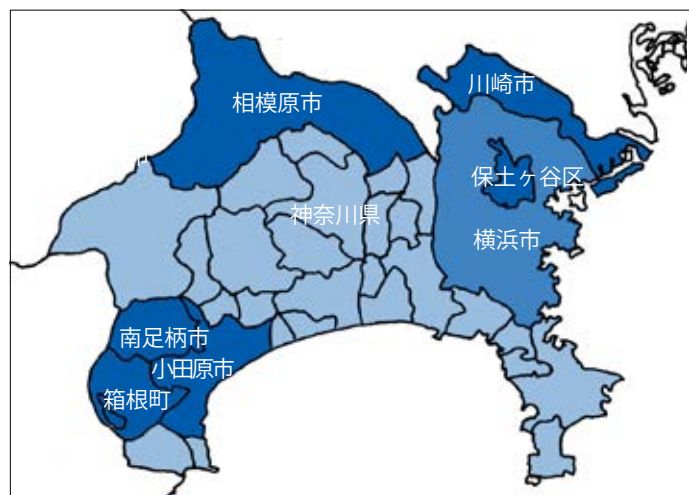
地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

地域実践教育研究センターは2019年度から、成長戦略教育研究センターは2020年度から機構内センターとして位置付けられました。



地方自治体との連携協定

本学では、各地方自治体や事業者等と連携協定を結ぶことによって、より充実した教育活動や研究成果を創出・提供しています。



連携協定を締結している地方自治体

Next Urban Lab

ネクスト・アーバン・ラボは、ヨコハマ、かながわ地域を主なフィールドとして教育・研究・実践活動を行い、その成果を発信する仕組みとして、2017年度より設置されました。地域の人々や、行政・企業・NPOなどと連携して、ヨコハマ、かながわ地域ならではの魅力を活かした地域のナレッジベースの構築を目指しています。

| No | ユニット名 | 代表者 |
|----|--|--------|
| 1 | 支える人を支えるプロジェクト | 井上 果子 |
| 2 | エディブルガーデン・エディブルキャンパス | 池島 祥文 |
| 3 | 地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村地域経済分析 | 居城 琢 |
| 4 | かながわ観光・環境まちづくり | 氏川 恵次 |
| 5 | ゲーミング横浜 | 田名部 元成 |
| 6 | 横浜産学官共創推進ユニット | 真鍋 誠司 |
| 7 | サステナビリティ戦略のためのマネジメントと会計 | 八木 裕之 |
| 8 | 組織における矛盾とジレンマが地域の中小企業の経営成果に及ぼす影響に関する学術的研究 | 山岡 徹 |
| 9 | 神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動 | 渡邊 拓 |
| 10 | 転ばない街のための技術融合型リビングラボ | 島 圭介 |
| 11 | ヨコハマ型リノベーションの実践 | 江口 亨 |
| 12 | 常盤台まちづくり応援団 | 大原 一興 |
| 13 | 都市空間研究会—都市科学の先進的知見と、開放性を備えた研究教育活動から結実させる「ポストCOVID-19の庭園都市」構想 | 樽沼 範久 |
| 14 | 里地里山×まちづくりラボ | 佐藤 峰 |
| 15 | 地球環境未来都市YNU拠点とみなとみらい21地区の連携研究ユニット | 佐土原 聡 |
| 16 | ポピュラー文化を活用した横国大周辺の2.5次元化プロジェクト(仮) | 須川 亜紀子 |
| 17 | みうらからはじめる研究会 | 高見沢 実 |
| 18 | 都市型保育施設の環境デザイン | 田中 稲子 |
| 19 | 新音響文化研究会 | 中川 克志 |
| 20 | 郊外居住のクリエイティビティとサステナビリティ | 藤岡 泰寛 |
| 21 | ユネスコ「人間と生物圏」計画支援ユニット | 酒井 暁子 |
| 22 | AOKI起業家育成プロジェクト | 周佐 喜和 |
| 23 | ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会 | 松田 裕之 |
| 24 | イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動のプラットフォーム | 為近 恵美 |

※ Next Urban Lab の各ユニットの内容は地域連携推進機構の HP サイトにて紹介をしています。検索：

■ 機構長



佐土原聡
Satoru SADOHARA

副学長(地域担当), 地域連携推進機構長, 都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・教授/ 都市環境工学, 都市のレジリエンス, 地理情報システム(GIS)

■ センター長



高見沢実
Minoru TAKAMIZAWA

地域実践教育研究センター長, 都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・教授/ 都市計画

■ 専任教員



志村真紀
Maki SHIMURA

地域連携推進機構・准教授/ 地域・都市デザイン, 建築意匠, まちづくり, デザイン学

■ 客員教員



秋元康幸
Yasuyuki AKIMOTO

地域連携推進機構・客員教授/ 都市政策, 都市デザイン

■ 客員教員



山崎満広
Mitsuhiro YAMAZAKI

地域連携推進機構・客員教授/ 都市デザイン, 地域経済開発, 新規事業開発



田中稲子
Ineko TANAKA

学長補佐(地域担当), 都市イノベーション研究院, 都市科学部・准教授/ 建築環境工学, 住環境教育



池島祥文
Yoshifumi IKEJIMA

学長補佐(男女共同参画担当), 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・准教授/ 農業経済学, 地域経済学



小池研二
Kenji KOIKE

教育学研究科, 教育学部・教授, 教科教育学, 美術科教育



小林誉明
Takaaki KOBAYASHI

国際社会科学研究院(法学), 先進実践学環・准教授/ 政治経済学, 国際協力論, 開発政策研究, ODA政策研究



居城琢
Taku ISHIRO

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・准教授/ 地域経済論, 産業連関論, 中小企業論, 環境経済論



鶴見裕之
Hiroyuki TSURUMI

学長補佐/ 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経営学部・教授/ 経営学, 商学



松行美帆子
Mihoko MATSUYUKI

都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授/ 都市計画, 開発途上国都市論



佐藤峰
Mine SATO

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部, 准教授/ 国際開発学, 社会人類学, コミュニティ・デザイン



野原卓
Taku NOHARA

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授/ 都市計画, 都市デザイン



尹莊植
YOON Jangshik

都市イノベーション研究院, 都市科学部・助教/ 都市計画, まちづくり



本藤祐樹
Hiroki HONDO

環境情報研究院・理工学部, 教授/ 技術評価論, エネルギー環境システム分析, ライフサイクルアセスメント, エネルギー心理学



小林剛
Takeshi KOBAYASHI

環境情報研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授/ 環境安全化学, 化学物質管理, 都市環境汚染



遠藤聡
Akira ENDO

環境情報研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授/ 都市・地域経済学



中村一穂
Kazuho NAKAMURA

工学研究院, 理工学部・准教授, 化学工学, 水環境工学, バイオプロセス



内海宏
Hiroshi UTSUMI

非常勤講師(地域連携と都市再生A), 地域・地区計画, 市民協働論, 地域・市民まちづくり論

*2022年度に予定している関連教員を掲載しています。



関 ふ佐子
Fusako SEKI

先進実践学環 副学環長・教授
国際社会科学研究院・教授/
社会保障法・高齢者法



山崎圭一
Keiichi YAMAZAKI

国際社会科学研究院, 経済学部・
教授/途上国経済, ブラジル研究,
都市住宅政策, 住宅金融



氏川恵次
Keiji UJIKAWA

国際社会科学研究院, 先進実践学環,
経済学部・教授/経済統計・
経済モデリング, 環境経済学



大森明
Akira OMORI

学長補佐, 国際社会科学研究院,
先進実践学環, 経営学部・教授/
マクロ会計, 環境会計,
サステナビリティ会計



相馬直子
Naoko SOMA

国際社会科学研究院, 先進実践学環,
経済学部・教授/
福祉社会学, 社会政策学



伊集守直
Morinao IJU

国際社会科学研究院, 先進実践学環,
経済学部・教授/
財政学, 地方財政論



藤掛洋子
Yoko FUJIKAKE

都市科学部長
都市イノベーション研究院,
都市科学部, 先進実践学環・教授/
文化人類学, 開発人類学, ジェンダ
ーと開発, パラグアイ地域研究



吉田聡
Satoshi YOSHIDA

都市イノベーション研究院,
都市科学部・准教授/
建築環境・設備



藤岡泰寛
Yasuhiro FUJIOKA

都市イノベーション研究院,
先進実践学環, 都市科学部・
准教授/建築計画, 都市計画



稲垣景子
Keiko INAGAKI

都市イノベーション研究院,
都市科学部・准教授/
都市・地域防災, 空間解析



江口亨
Toru EGUCHI

都市イノベーション研究院,
都市科学部・准教授/
建築構法計画, 建築生産



三浦倫平
Rinpei MIURA

都市イノベーション研究院,
都市科学部・准教授/
都市社会学, 地域社会学



松田裕之
Hiroyuki MATSUDA

環境情報研究院, 先進実践学環
都市科学部・教授/
生態・環境, 水産資源学,
環境リスク学, 環境生態学



小池文人
Fumito KOIKE

環境情報研究院, 先進実践学環,
都市科学部・教授/生態・環境,
生物資源保全学



島圭介
Keisuke SHIMA

環境情報研究院, 先進実践学環
理工学部・准教授/生体医工学,
リハビリテーション科学,
知能ロボティクス



岡部純一
Junichi OKABE

国際社会科学研究院, 経済学部
教授/経済統計学, 社会統計学,
途上国統計制度論

※ 岡部純一先生は、2021年8月に満62歳でご逝去されました。

岡部先生は経済統計を専門とし、地域実践教育研究センターの地域課題実習においては「数字で捉える地域経済」、「横浜市と市民生活白書を作ろう!」、「データで捉える地域課題・地域経済」に長く指導に関わり、地域連携に貢献されました。謹んで岡部純一先生のご冥福をお祈り致します。

● 主な研究成果

- ・ 岡部純一, 『行政記録と統計制度の理論—インド統計改革の最前線から—』日本経済評論社, 2018年 (ISBN: 978-4-8188-25)
- ・ Jun-ichi Okabe and Aparajita Bakshi, A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Village Panchayat Databases (Ver.2, Paperback), Tulika Books, 2018 (ISBN: 978819340152) .
- ・ 岡部純一, 「行政記録と統計制度—ヨーロッパとインドの統計改革に関する比較分析—」『エコノミア』68 (2), 2018年, pp.23-71.
- ・ Jun-ichi Okabe, "Village Spatial Information in India: A Case from Palakurichi Village in Tamil Nadu", Center for Economic and Social Studies in Asia (CESSA) Working Paper 2021-01, 2021, pp.1 - 13.
- ・ Jun-ichi Okabe, "Availability of Maps for the Village in India", Center for Economic and Social Studies in Asia (CESSA) Working Paper 2020-01, 2020, pp.1 - 8.

● 情報掲載

<https://www.econ.ynu.ac.jp/news/okabe.html>

地域実践教育研究センターから発行される
ブックレット・報告書 等



みんなのまちづくりゲーム in cities
MINMACHI in cities

*南三陸研修センターが運営するウェブサイトから購入・注文できます。

2022年3月発売

横浜国立大学 地域連携推進機構
 地域実践教育研究センター +
 南三陸研修センター 編
 (池島祥文+伊集守直+志村真紀+浅野拓也)

地域交流科目のコア科目「地域連携と都市再生B(かながわ地域学)」において、参加型授業の教材として用いられてきた「みんなのまちづくり in cities」が販売されました。このゲームでは、チームで地域の経済や行財政の仕組みを学びながら、自分たちが住みたいと思える、まち・地域を実現するためには、どのようなアクション・政策が効果的なのかシミュレートすることができます。



地域創造論 vol.3

*地域実践教育研究センターのウェブサイトからダウンロードできます。

2022年3月公開

- 地域はどう変わるか 2010年代から2020年代に向かって -

政策科学と政策形成 小池 治 / 持続可能な都市とモビリティシステムー COI プログラムによる横浜国立大学の取り組みー 有吉 亮・西岡 隆暢 / 都市におけるエネルギーリテラシー 澁谷 忠弘 / フラットで双方向的な世界へ:「地域間協力(連携)」の構想と取り組み 佐藤 峰・奥井 利幸 / 震災とコミュニティ-大熊町を事例として- 吉原 直樹 / SDGs 未来都市・横浜の挑戦と「ヨコハマ SDGs デザインセンター」のこれから 信時 正人 / 2035年に当たり前に木材のある社会を目指して 井上 博成 / 2020年代に向けた大学と地域~羽沢横浜国大駅開業を前に 高見沢 実 / 2020年代に向けたヘリテージマネジメントの課題 大野 敏 / 地域創造と EBPM~森林の多面的機能を事例に~ 小池 治 / SDGs 達成に向けた県の施策形成 清木 信宏 / 地域経済とまちづくり(ディスカッション) 氏川 恵次・池島 祥文・伊集守直・志村 真紀 / モビリティ~Maas+デジタル化による地域像+コロナ~ 中村 文彦 / エネルギー環境と都市(ディスカッション) 吉田 聡・野原 卓・田中 稲子 / 新型コロナと都市計画:「新近郊」論に向かって~新型コロナ感染後の新たな社会を展望する~ 高見沢 実



横浜国立大学 地域実践教育研究センター
地域課題実習・地域研究報 2021年度

2022.4発行予定



2021年度の地域課題実習と、横浜国立大学内の地域実践教育研究センターに関わる教員を通じて集められた地域に関する研究がおさめられた報告書です。

研究論文の各梗概は「横浜国立大学 学術情報レポジトリ」のサイトからも検索・閲覧できます。
<http://kamome.lib.ynu.ac.jp/dspace/>



■ 問合せ・連絡先

横浜国立大学
 地域連携推進機構
 地域実践教育研究センター
 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
 横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
 TEL&FAX: 045-339-3579
 E-mail: chiki-ct@ynu.ac.jp
 URL: <http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

